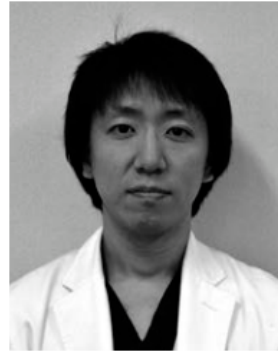


「心房細動」



内科医師

田原 功道

山香病院だより vol.84

の方、過去に脳卒中を起こしたことがある方などは脳梗塞の危険性が高いため、予防が必要となります。

脳梗塞の予防には古くからワルファリンという抗凝固薬（血液を固まりにくくする薬）が用いられており、現在も多くの方が内服されている非常に有用な薬です。しかし納豆、クロレラ、青汁などビタミンKを多く含む食物を摂取すると効果を弱めてしまうため、ワルファリン内服中はこれらの食物を摂取できません。また1〜2ヶ月に1度は必ず採血をして、効き具合を確認しなければなりません。

しかし、近年ワルファリンに代わる新しい抗凝固薬が数種類発売されており、これらの薬剤は食物の制限や定期的な採血を基本的に必要としません。しかも脳梗塞の予防効果はワルファリンと同等かそれ以上で、副作用（出血）が少ないのも特徴です。

心房細動は、正しく治療すればすぐに命に関わるような不整脈ではありません。症状が気になる方はいつでもご相談ください。

心房細動は日本の総人口の約1%が患っているという頻度の高い不整脈で、加齢とともに患者数は増加します。80歳以上では約5%の方が心房細動を有すると言われており、高齢化社会の現在、患者数は増え続けています。

心臓は心房（上の部屋）と心室（下の部屋）が交互に規則正しく収縮することで血液を循環させていますが、心房細動になると心房が小刻みに震えるような動きになります。心臓の収縮が不規則になると、心房細動が起こると脈の乱れを伴う動悸を自覚されることが多いですが、無症状のこともしばしばあります。

先に述べたように、心房細

動になると心房がきちんと収縮できなくなり、心房の中で血液がよどんでしまい「血栓」と呼ばれる血の塊ができやすくなります。血栓が心臓から飛び出してしまうと血液の流れにのって全身に飛び、脳の血管に詰まると脳梗塞を起こしてしまいます。脳梗塞の約30%に心房細動が関連しており、心房細動が原因で起こる脳梗塞は重症になりやすいのが特徴です。

心房細動の治療で最も重要なのは脳梗塞の予防です。心房細動の方の中でも脳梗塞を起こしやすい方とそうでない方がいらっしやいます。もともと心臓に病気のある方、高血圧症や糖尿病の方、高齢